

教育・子ども若者・警察常任委員会 資料6
令和8年(2026年)10月8日(木)
教育委員会事務局保健体育課
(全国高校総体推進室)

つなげ みんなの想い 輝け 近畿の舞台で

令和8年度全国高等学校総合体育大会

「夢へ躍進 青春の夏 近畿総体 2026」

にー まる にー ろく



大会報告



滋賀県高校生活動推進委員会公式キャラクター
チャッフィー キャッフィー

令和8年度全国高等学校総合体育大会 大会概要

- 滋賀県開催競技（7競技9種目）開催期間 7月30日（木）～8月21日（金）
- 来場者数 約9.4万人（選手・監督 11,584人 大会関係者 5,656人 観客数（延べ数） 77,177人）
- 幹事県として大会全体の総合開会式を8月3日（月）に開催（本県開催は47年ぶり）

■滋賀県開催競技

開催競技等	開催地市	日程	競技会場	選手・監督数	大会関係者	観客数(延べ数)
陸上競技	彦根市	7/30(木)～8/5(水)	平和堂HATOスタジアム	4,410人	2,131人	35,875人
水泳 競泳	草津市	8/13(木)～8/16(日)	インフロニア草津 アクアティクスセンター	2,485人	376人	3,000人
飛込		8/17(月)～8/20(木)		101人	102人	300人
水球		8/18(火)～8/21(金)		285人	309人	2,400人
バレーボール(女子)	草津市 守山市	8/3(月)～8/7(金)	草津市立滋賀トヨタアリーナ 守山市民体育館	709人	739人	13,578人
ローイング	大津市	8/9(日)～8/13(木)	関西みらいローイングセンター	1,131人	443人	3,268人
ホッケー	米原市 長浜市	8/7(金)～8/12(水)	OSPホッケースタジアム 伊吹第1グラウンド 県民共済ドーム長浜	923人	931人	8,756人
ウエイトリフティング	高島市	7/30(木)～8/3(月)	滋賀県立安曇川高等学校体育館	671人	244人	2,500人
フェンシング	大津市	8/9(日)～8/13(木)	滋賀ダイハツアリーナ	869人	381人	7,500人

【滋賀県開催競技の振り返り】

○7/28に発生した「令和8年熊本地震」や度重なる台風の接近等により、大会参加校の欠場を危惧。

➡ 出場校それぞれの尽力によりすべての参加校が大会に出場。

○8/12の台風15号の滋賀県最接近により、開催期間中のホッケー競技、ローイング競技、フェンシング競技への影響を危惧。

➡ 天候の状況等を踏まえ、ホッケー競技、フェンシング競技は予定通り開催。
ローイング競技は、湖上の強風・荒波の状況を踏まえ、日程の一部を変更（準々決勝の前倒し実施、準決勝の取り止め）し開催。

○開催競技の暑熱対策を徹底し、ホッケー競技は午前・夕方2部開催、陸上競技は全種目を夜間に開催（大会初の取組）。

➡ 7競技9種目の熱中症患者数は、21人となり昨年大会と比べて▲23人の減。
一方で、開催経費の増嵩や大会スタッフの確保が課題。



[7/30 19時頃
平和堂HAT0スタジアム]



持続可能な大会に向けて、試行的に陸上競技で初めて会場入場料（前売り1,000円、当日1,500円）を設定



[入場チケット販売の様子]

【総合開会式】

- 令和8年8月3日（月）滋賀ダイハツアリーナで開催。
- 秋篠宮皇嗣・同妃両殿下御臨席のもと、インターハイの開会を宣言する厳かな式典と、滋賀の高校生によるおもてなしの公開演技を通して選手に激励エールを送り、大会でのさらなる飛躍を後押し。

○総合開会式当日の参加者 2,960名

（内訳）参加選手団	531名
招待者・観覧者	882名
出演者・ゲスト	713名
その他（式典役員・補助員等）	834名

約1,400名
の高校生が参加

- 会場入場用IDカードの送付が大幅に遅れたことで参加の皆さんに御心配・御不便をおかけした。

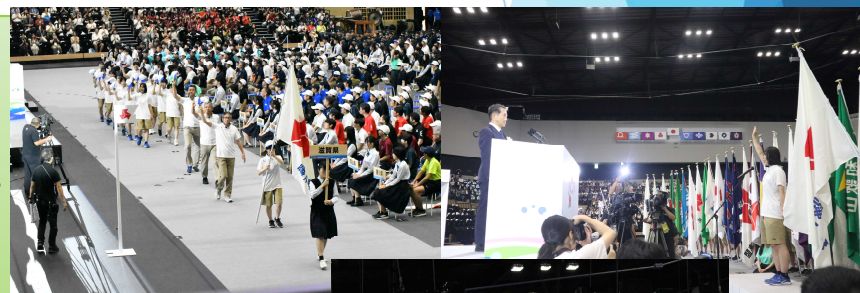


滋賀ダイハツアリーナ

<総合開会式の内容>

[式典]

- 石山高校吹奏楽部と音楽科の合唱のもと、バレーボール（女子）の出場校51校が入場行進。プラカードは東大津高校の生徒が担当。
- プラカードは伊香高校がびわ湖材で制作。
- 選手宣誓は綾羽高校バレーボール部主将が出場校を代表して宣誓。
- 式典映像（競技紹介映像等）は滋賀学園高校が制作。
- 総合開会式の司会は、公募の県内高校生が担当。
- 総合開会式の手話は、八幡高校の生徒が担当。



写真：P&P浜松

写真：
膳所高校新聞班

写真：P&P浜松



【 公開演技 】

○滋賀県に伝わる昔話や伝承をもとに県内高校生たちが演舞・演奏。幕間には立命館守山高校演劇部が高校生と松尾芭蕉に扮して演技。

- シーン1 「余呉湖の羽衣伝説」をもとに彦根東高校箏曲部が演奏
- シーン2 「三上山のムカデ退治」をもとにMIHO美学院中等学校和太鼓部とダンス・バトン部が演奏・演舞
- シーン3 「比良八荒」の民話をもとに膳所高校吹奏楽班が演奏
- シーン4 「雷獣伝説」「太郎坊宮の天狗伝説」をもとに甲西高校吹奏楽部がマーチング演奏



シーン1



シーン2



シーン3



シーン4

各写真：P&P浜松

【 選手団激励 】

- オープニングでは、滋賀学園高校と膳所高校が、小中学生も参加するチアリーディングで選手たちを応援。
- (公財)日本バレーボール協会会長の川合俊一氏を招待し、司会の高校生活動推進委員とゲストトーク。
- フィナーレでは、大津高校軽音楽部と膳所高校吹奏楽班が公式応援ソング「Be Challenge!! (ビー チャレンジ!!)」を演奏。出演した高校生たち全員が参加するダンスで総合開会式を締めくくった。



各写真：P&P浜松

【高校生活動】

生徒が、スポーツを、「する」「みる」だけでなく、「ささえる」

立場から、主体的に準備・運営に携わり、様々な人と交流し、

感動や達成感を得られる大会を目指す

41名の高校生活動推進委員が活動

＜令和8年の主な活動＞



(令和6年12月21日 委員委嘱式の集合写真)

[5/23大会直前イベント（2026インターハイ前夜祭）]

○7月のインターハイ開催を控え、大会を盛り上げるために高校生活動推進委員が中心となって企画し運営。

○会場のビバシティ彦根では、ステージイベントや競技体験コーナー・グッズ作りのワークショップ等を設置し、約2,300名が来場して楽しまれた。



[大会期間中（7/30～8/21）のおもてなし活動]

○高校生活動推進委員や会場地等の高校生が、競技会場で来場者にオリジナルグッズや「おもてなし袋」を配布。

○「おもてなし袋」（7,000セット）には高校生たちが取材した「おもてなしパンフレット」や、タオル・うちわ等の暑熱対策グッズを入れ、来場者から好評を得た。



＜滋賀県の高中生たちによる これまでの活動＞

- カウントダウンボード製作し県内13カ所に設置
- 会場を彩る草花装飾の試験栽培
- 県内メディア出演（びわ湖放送、エフエム滋賀）
- わたSHIGA輝く国スポ大会でのブース出展（令和7年9月28日）
- 2026 インターハイ応援祭開催（令和7年11月16日）
- 各種広報グッズ製作
- おもてなしマップ製作活動（取材）
- 会場を飾るのぼり旗の製作
- 入賞メダルの意匠
- 競技別大会ポスター原画の作成
- 総合開会式で放映する式典前映像の制作
- 100日前啓発活動（令和8年4月21日）

など



カウントダウンボード設置
（草津イオンモール）



カウントダウンボード設置
（アル・プラザ草津）



入賞メダル



2026インターハイ応援祭（令和7年11月16日）



草花装飾



啓発活動（石山駅）



おもてなしパンフレット取材活動



BBC番組「金曜オモロしが」出演

【「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」のレガシーを引き継ぐ取組】

■わたSHIGA輝く国スポ・障スポ ➡ 4分野の取組を通じて「みんなが輝く大会」に

- ①スポーツの力でつくる共生社会 ③おもてなしで滋賀の魅力発信
- ②環境に配慮し実践する大会 ④子ども、若者、女性が活躍

■滋賀のインターハイでも、国スポ・障スポでの取組を引き継ぎ、高校生の「学び」につなげる

- ①高校生スタッフが大会参加を通じて「心のバリアフリー」を学ぶ機会に
- ②高校生等が環境配慮の取組に関わることで「持続可能な社会」を学ぶ機会に
- ③④大会参加者へのおもてなしと滋賀の魅力の発信を通じて「地域の魅力」を学ぶ機会に

①障害への理解を深め、サポートの基礎知識を得る高校生スタッフハンドブック作成

○競技運営をささえる滋賀の高校生たちが、来場される皆さんをおもてなしできるように、また来場された皆さんも安心して競技観戦ができるようハンドブックを作成。3,300部を各学校に配付。

<ハンドブックの内容>

- 高校生スタッフとしての10の心構え
- 共生社会って？研修動画二次元コード
 - ・動画は、「車いす利用者へのサポート」、「視覚障害者へのサポート」「聴覚障害者へのサポート」の3本を見ることができる。
- 障害者をサポートする場合の基本的な心構え
- コミュニケーションボード
 - ・大会会場で必要になる可能性があるイラストを記載 など



②ペットボトルの再資源化（ペットボトル再資源化ステーションの設置）

○環境への負荷を減らした大会運営に取り組むため、総合開会式と一部会場（水泳、バレーボール女子、ローイングおよびフェンシング）において、分別等が行われたペットボトルを資源として回収し再資源化する取組を企業と連携して実施。

<回収実績>

5,963 本 約 243 kg

（CO2削減量 約 417 kg）

※一般家庭の約1ヶ月～1.5ヶ月分の電気使用量に相当



③④おもてなしパンフレット「すばらしが」の刊行

○大会関係者や来場者への「おもてなし」活動の一環として、会場の飲食店や観光情報を掲載したパンフレットを高校生たちが取材して制作し、総合開会式や各競技会場で配布。

発行部数 24,000 部



【令和8年度インターハイの成果】

◆インターハイの持続可能な開催に向けた取組

- 競技面：暑熱対策の徹底の一環として、陸上競技で初めて全種目を夜間に開催。
- 運営面：外部財源確保に向けた取組として、試行的に会場入場料を徴収。
- ➡ インターハイがより良い大会になるよう、取組で得たノウハウと課題を後年度開催県につなげる。

◆高校生たちの「学び」と「成長」につながった大会

- 競技・運営補助として参加した県内高校生たちは、大会を「ささえる」体験を通じてスポーツへの多様な関わり方を学ぶ機会となった。
- 高校生活動推進委員たちは、広報や機運醸成活動、また大会期間中の選手激励やおもてなしなどを学校や世代を超えて協力して取り組み、自分たちの「可能性」に気づき成長することができた。
- ➡ 様々な活動で得た経験と学びを糧に、高校生たちが社会に力強く羽ばたいていくことを期待。

[滋賀県高校生活動推進委員たちの声]

- ・ 受験期で大変だけど色々な活動を経験できて良かった。
- ・ 色々な学校の高校生たちと出会い共に活動ができて貴重な経験になった。
- ・ 皆が優しく接してくれて自発的に活動できるようになった。
- ・ 部活ではできない経験をすることができた。
- ・ 県内でも普段いかない場所を訪問できて滋賀の魅力に気付くことができた。
- ・ 人前で話すことが苦手だったが、活動を通じて、大勢の前で自分の言葉を気持ちを伝えることができるようになり、成長を実感できた。
- ・ 自分がやりたいことに何でもチャレンジすることができ、自分の可能性に気付けた。将来はその可能性を皆が笑顔になれるようなところに活かしたい。